

階上町管内ホッキガイ稚貝資源調査 (要 約)

尾坂 康・横谷 要一 (水産事務所)

横山 勝幸 (水産増殖センター)

階上漁業協同組合では、昭和60年から雑桁曳き網漁業として管内の海域において、ビノスガイ、サラガイの操業を実施してきているが、この漁業の操業者から、年々ホッキガイ稚貝が混獲され、増えてきている傾向があるとの情報が漁協へもたらされた。漁協では、ホッキガイ稚貝の資源量等について把握し、今後の増殖事業に結びつけたいとの希望があり、県水産事務所を通じて調査依頼があったもので、詳細については県水産事務所普及課の尾坂 康総括主査がとりまとめ、「階上町管内ホッキガイ稚貝資源調査結果報告書」(県水産事務所資料、平成元年8月)として発表している。

1. 調査の概要

- (1) 調査日時：1989年8月3日
- (2) 調査方法：階上漁協所属の調査船2隻による雑桁網曳き操業
- (3) 調査海域：図1に示す階上町道仏漁港から小舟渡漁港沖合の水深12～14mの海域

2. 結果の要約

(1) ホッキガイの分布及び資源量

ホッキガイの分布状況を図1に示した。小舟渡漁港の改修工事のため作業船が停泊していて、破線部より南側海域での調査はできなかったが、調査範囲におけるホッキガイの平均入網量は1㎡当たり1.31kgであり、生息海域の面積を15,000㎡として計算すると資源量(採捕可能量)は約20トン(19.65トン)と推定された。

(2) ホッキガイの年齢と殻長組成

殻表に見られる障害輪から、大部分のホッキガイは1987年産と推定され、1984～1986年産と1988年産貝が若干含まれていた。1987年産貝の殻長組成を図2に示した。

(3) その他の二枚貝

ホッキガイ以外には、ビノスガイ、サラガイ、エゾバカガイが漁獲されたが数量は非常に少なかった。

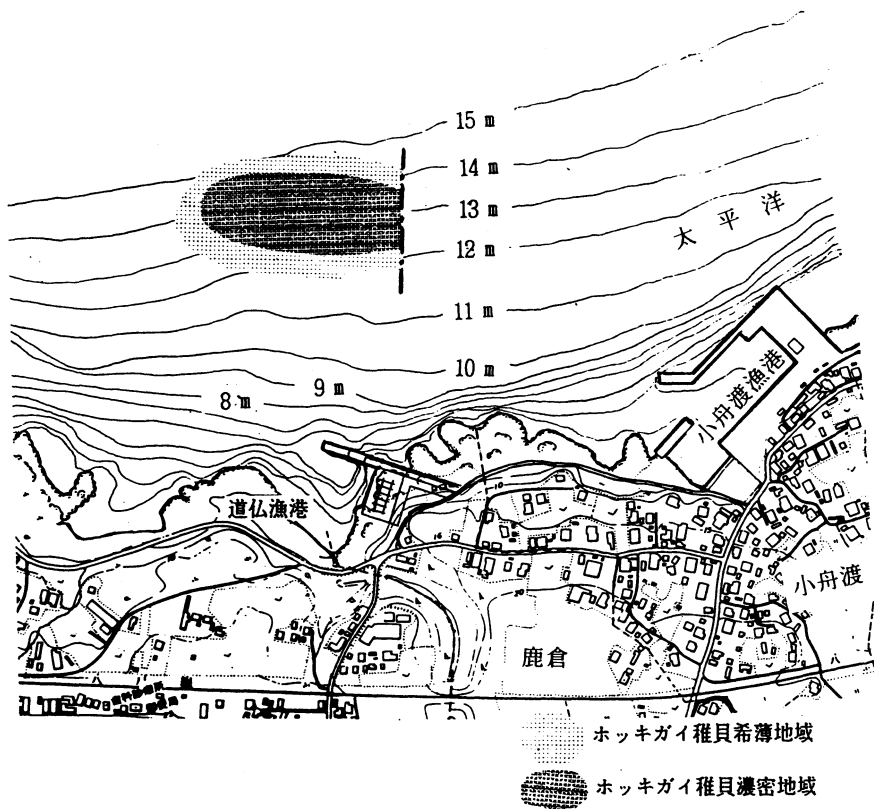


図1 調査海域及びホッキガイ分布状況

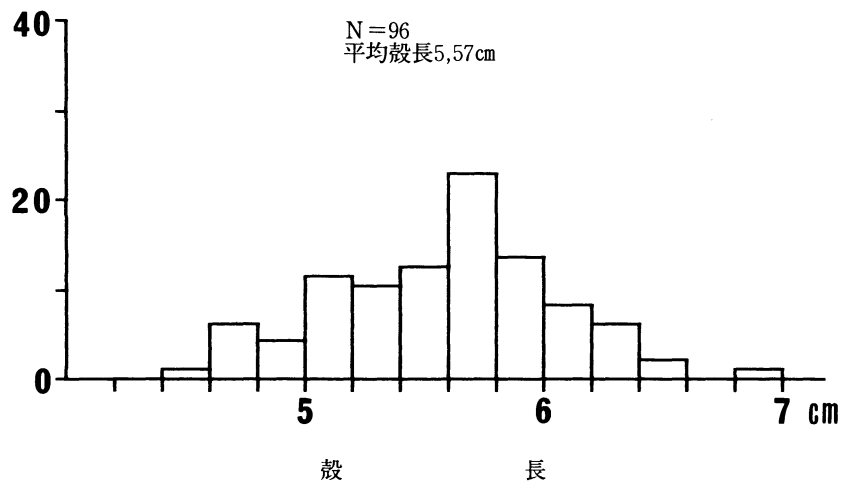


図2 1987年産ホッキガイの殻長組成 (%)